

地域の皆さまへ

皆さまには、日頃より四国電力の事業運営にご理解賜り、心から御礼申し上げます。

当社では、引き続き、伊方発電所のさらなる安全性向上を図るとともに、すべての関係者が責任感と使命感をもって業務を遂行するよう、安全文化と法令順守の意識を一層確かなものとする取り組みに全力を尽くしております。

今後も、迅速・的確な情報公開を徹底することはもとより、一つ一つの作業を慎重かつ確実に進め、安全・安定運転を実現することで、皆さまからご信頼いただける伊方発電所を目指してまいります。

四国電力株式会社 取締役社長
社長執行役員

長井啓介



四国電力では、伊方発電所に対する皆さまのご不安や疑問の声に少しでもお応えできるよう、毎年、社員が各ご家庭を訪問し、直接ご意見をうかがう活動を行っております。

しかしながら、新型コロナウイルスを巡る現下の状況を踏まえ、従来の方法に代えて、伊方発電所の現状などについてご説明するリーフレットを皆さまにお届けすることといたしました。

このリーフレットの内容に関するものをはじめ、発電所について日頃からお気づきの点やご質問などがございましたら、

・同封の郵便はがき あるいは

・電子メール (専用メールアドレス: chiiki-voice@yonden.co.jp)

にてお寄せください。



皆さまからご信頼いただける伊方発電所を目指して —さらなる安全性向上への取り組み—

伊方発電所では、所員一同、責任感と緊張感を持って、発電所の安全性向上に取り組んでいます。昨年1月に連続して発生したトラブルについては、その直接原因を踏まえた再発防止策はもちろん、各トラブルの背景にある要因や社外からいただいたご意見などを踏まえた総合評価に対応する改善策を継続的に実践するとともに、愛媛県知事および伊方町長からご要請いただいた事項の着実な実施に努めております。

安全文化を育んでいくために

- ▶ 社長をはじめとした当社の経営層・幹部と発電所員との双方向コミュニケーションの充実に図り、安全意識の共有に向けた意見交換の場を設けています。



安全文化を一層確かなものにしていくため、話しやすい雰囲気の中にも真剣な意見交換を今後も続けていきます。

細川総務課長



既におよそ50回を数えるまでになった意見交換

作業計画段階でのチェックを強化するために

- ▶ 発電所の作業計画をチェックし、その妥当性を確認する新たな組織「プロセス管理課」が活動を始めました。作業をさまざまな観点から検証し、必要に応じて改善を提案しています。



作業担当部門から独立した立場で活動するプロセス管理課

作業担当部門とのコミュニケーションを図るうえで、「問いかける姿勢」を大切にしています。発電所の安全を担う中核組織を目指し、これからも技量を高めていきたいと考えています。



高畑プロセス管理課長

チェックの観点(例)

- ・重要な作業が適切な時期に計画されているか。
- ・リスクをさらに低減できないか。
- ・作業中に偶発的な故障が起きるとどうなるか。

技術力を維持し、高めていくために

- ▶ ベテラン社員の視点と知見を作業の要領書に反映したほか、定期検査作業は若手社員とベテランを組み合わせるなど、技術継承に努めています。
- ▶ 前回の実施から長い時間が経過して行う作業については、模擬設備を活用した訓練を計画・実施します。



ベテラン社員のノウハウを確実に受け継ぐ

さらに、次のような取り組みも着実に進めています。

- ・「軽微な気づき」の幅広い収集と改善活動によるトラブルの未然防止
- ・安全対策を検討するための国内外の最新知見の収集
- ・トラブルの直接原因を踏まえた調査・研究や設備の改造
- ・新型コロナウイルス感染症対策の徹底

発電所のルール(保安規定)に違反する事案について

2017年から2019年にかけて、宿直勤務中の社員(現在は退職)が発電所から無断で外出し、万一の重大事故発生時に備えて待機が必要と定める要員数を一時的に満たしていない時間帯があったことが本年7月に判明しました。

地域の皆さまからのご信頼を失いかねない事案であり、当社は、本件を大変重く受け止めています。

今後、同様の事案を決して繰り返すことのないよう、原子力安全ならびに法令順守・企業倫理の徹底に対する意識を一層高めるための社員教育に取り組んでいくことはもとより、スマートフォンによる宿直当番者の所在確認や点呼の追加など「ルール違反を未然に防止する仕組み」を強化してまいります。

伊方発電所でのこうした取り組みは、動画でもご紹介しています。



地域のケーブルテレビ局での放送
(八西CATV、ケーブルネットワーク西瀬戸、西予CATV)



四国電力
ホームページ



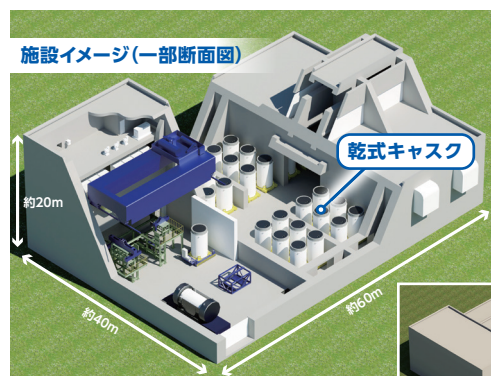
伊方発電所におけるこのほかの取り組みについてご紹介します。

使用済燃料乾式貯蔵施設について

- ▶ 伊方発電所で発生した使用済燃料を一時的に貯蔵するため、発電所敷地内に「乾式貯蔵施設」を新たに設置するための準備を進めています。

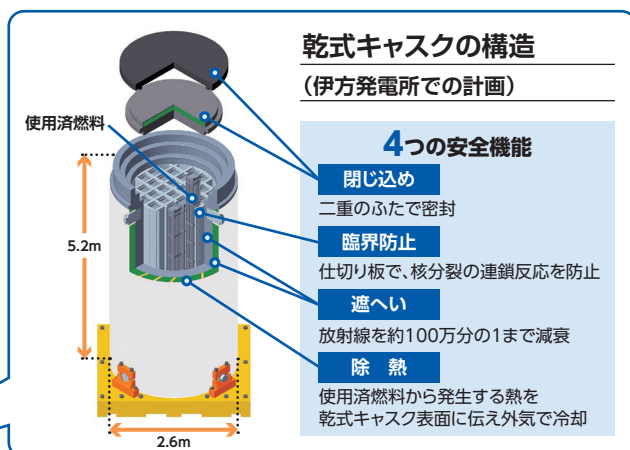
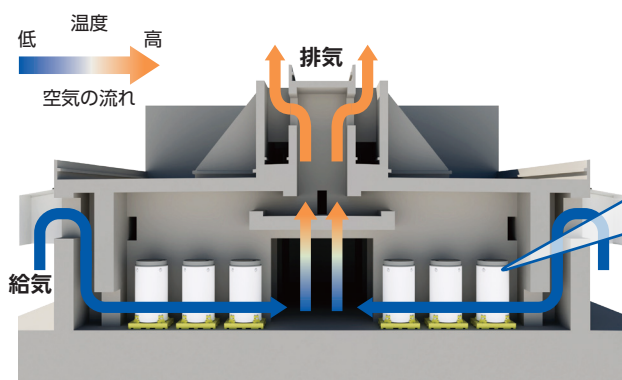
当社では、この施設の運用を2024年度から開始することを目指し、地域の皆さまからのご理解を賜りながら、引き続き安全を最優先に、設置に向けた取り組みを進めてまいります。

■ 乾式貯蔵施設とは



発電所内の使用済燃料ピット(プール)で十分に冷やされた使用済燃料を「乾式キャスク」と呼ばれる金属製の頑丈な容器に収納し、貯蔵する施設です。

水や電気を使わず、空気の自然な流れで冷やしながら貯蔵することができ、安全性に優れています。



動画でもご紹介しています。
「乾式貯蔵施設ってどんなもの?」



特定重大事故等対処施設(テロ対策施設)について

- ▶ 既存設備をバックアップし、発電所のさらなる安全性向上に資するものとして国の規制基準で設置が求められている特定重大事故等対処施設については、2019年6月より工事を行っています。今後も丁寧に工事を進め、万一の事態にしっかりと備えてまいります。

1、2号機の廃止措置について

- ▶ 先行する1号機に続き、本年1月、2号機についても廃止措置作業を開始しました。約40年にわたる取り組みを、今後も安全かつ着実に進めてまいります。

■ 伊方発電所に対するご意見・ご要望 (平日9:00~17:00)

原子力本部 エネルギー広報グループ TEL: 089-946-9730

伊方発電所 広報課

TEL: 0894-39-1701



四国電力株式会社